

法政大学アカデミー合唱団では50周年の記念として初めて委嘱作品をお願いいたしました。

今回は混声合唱曲「季節へのまなざし」で高名な萩久保和明先生に委嘱をお願いし、みずかみ かずよさん作「ちいさないのち」を詩に完成いたしました。今回11月27日の第50回記念定期演奏会にて発表させていただきます。

男声合唱からはじまり女性6声合唱などいろいろな音色にみずかみかずよさんの心打つ言葉が続きます。今回の第50回記念定期演奏会にはOB約60名も「ちいさないのち」のステージにオンステさせてもらい現役と一緒に歌わせて頂きます。記念演奏会という事もあり、東京オペラシティ コンサートホール:タケミツ メモリアルにて開催致します是非、OB・OG、そして一般の皆様ご多忙のおりとは存じますがご来場ください。お待ちしております。

期日 2011年11月27日(日)  
開場 13時30分  
開演 14時

開場 東京オペラシティ コンサートホール  
タケミツ メモリアル  
京王新線 初台駅東口直結

それでは作詞、作曲者、タケミツメモリアルについてご紹介させていただきます

## 作詞 みずかみ かずよ

1935-1988

福岡県八幡市（現北九州市八幡東区）生まれ。福岡県立八幡中央高校卒業後、兄が経営する私立尾倉幼稚園に勤務。童話、詩の創作を始め、児童文学同人誌「小さい旗」に参加。1958年水上平吉と結婚。

主な作品に、『馬でかければ』『みのむしの行進』『こえがする』『小さな窓から』『うまれたよ』『きんのストロー』『子どもにももらった詩のこころ』『歌集生かされて』『南の島の白い花』『ごめんねキューピー』『ぼくのねじはぼくがまく』など。

1974年、読売新聞社など主催の「愛の詩キャンペーン」に応募した「愛のはじまり」で金賞一席を受賞。81年、夫平吉とともに北九州市市民文化賞を受賞。96年『みずかみかずよ全詩集いのち』で第5回丸山豊記念現代誌賞を受賞。

詩9篇が教科書に採用され、『おぼえておきたい日本の明詩』に「馬でかければ」が掲載されるなど、没後も広く読まれている。

みずかみかずよ文学碑  
「ふきのとう ゆきが そこだけ とけてるの  
あったかい いきが かかるのね  
うれしい こえが ひびくのね」



国語教科書にも採用されたこの詩は、春を告げる「ふきのとう」の芽吹きを通じて、自然、植物、人間のあたたかい交流が、一つの絵になって目に浮かびます。

詩碑のある小伊藤山公園は、太平洋戦争中、市内最大の100メートル級防空壕があり、昭和20年8月8日の八幡大空襲の際、避難していた300人と700人ともいわれる市民が死亡したといわれる殉難の地です。このため、横のロータリーに「復興平和記念像」が建てられました（「屋外彫刻」の項参照）。

みずかみかずよが描くこの平和な「絵」は、人間の争いの愚かさに対比しつつ、何かを語り続けていくことでしょう。

法政大学アカデミー合唱団  
第50回定期演奏会

第1ステージ  
ミュージカル  
『The Phantom Of The Opera』より  
作詞 Charles Hart  
作曲 Andrew Lloyd Webber  
編曲 ED Lojesky他  
指揮 木津 歩 (学生)  
ピアノ 久瀬 之宜

第2ステージ  
混声合唱曲「岬の墓」  
作詩 堀田 善衛  
作曲 團 伊玖磨  
指揮 小久保 大輔  
ピアノ 久瀬 之宜

第3ステージ  
『Spirituels』  
編曲 Moses Hogan, Alice Parker  
and Robert Show  
指揮 柄沢 佑香 (学生)

第4ステージ  
法政大学アカデミー合唱団  
法政大学アカデミーフェスティバル合唱団  
創立50周年記念委嘱作品  
混声合唱組曲「小さいのち」  
作詩 みずかみ かずよ  
作曲 萩久保 和明  
指揮 浅井 敬壹  
ピアノ 久瀬 之宜

2011年11月27日(日)  
開場: 13時30分 / 開演: 14時  
料金: 指定席 1,500円 / 自由席 1,200円  
▶東京オペラシティコンサートホール  
タケミツメモリアル  
京王新線(都営地下鉄新宿線乗り入れ)初台駅東口直結  
後援 東京都合唱連盟

お問い合わせ: TEL 080-3644-6332 (山川 創) E-mail: hosei.academy@gmail.com

◆もう少し知りたいかたへ  
北九州市立文学館ニュース

<http://www.kitakyushucity-bungakukan.jp/sub-siori/pdf/kanpou008.pdf>

# 作曲 荻久保 和明(おぎくぼ かずあき、1953年3月8日 - )

作曲家・指揮者。東邦音楽大学特任教授

埼玉県に生まれる。高校時代は埼玉県立川越高等学校の音楽部に所属して男声合唱を行うかたわら、ピアノ伴奏を務めていた。音楽部の顧問として、第31回(1964年)NHK全国学校音楽コンクール全国優勝、第32回(1965年)準優勝、結果1964年 - 1968年に同NHKコンクール5年連続全国大会出場(当時は全国で10校のみ)の成績を残した名物教諭で、東京音楽学校(現東京芸術大学)作曲科卒の経歴を持つ牧野統に、ピアノと作曲を師事した。

高校3年在学中に処女作の、サトウハチロー作詞「おかあさん」に曲をつけた男声合唱組曲を書き上げ、1970年秋に同校音楽部の第20回定期演奏会にて披露した。自ら演奏したピアノ伴奏に将来性が高く感じとられ、好評であったという。

その後東京芸術大学に入学、同大学院作曲研究科を修了。在学中島岡謙、矢代秋雄、間宮芳生、野田暉行に作曲を、丸山徹薫、クロイツァー豊子にピアノを師事。1976年、「2つのオーケストラのためのレインダンス」にて、第45回毎日音楽コンクール作曲部門第1位を受賞。

昭和53年度文化庁芸術祭参加作品として委嘱された混声合唱曲「季節へのまなざし」によって、合唱界での知名度が高まる。他の作品として、宗左近の詩をテキストにした合唱曲「縄文」シリーズがある。「縄文」(1979年)、「縄文“詩篇”」(1995年)、「黙示録・縄文」(1999年)の「縄文三部作」に、「番外編」(作曲家のコメントによる)として、「縄文ラプソディー」(1987年)、「縄文“愛”」(1993年)を加えた5曲から成る。

1987年に混声合唱団コールクライスを結成し、指導に当たっている他、数多くの合唱団の客演指揮者を務めている。教育活動でも多くの功績を残し、優秀な門人を多数輩出している。最も有名な弟子に、2010年度武満徹作曲賞第2位を受賞した難波研がいる。

## 代表作

### 管弦楽

霊山院にて

Cosmos for Orchestra

交響曲

### 吹奏楽

カタストロフィー

栄光の讃歌 -輝けるもののために-(混声合唱つき)

### 室内楽・器楽

黒い典礼(パーカッションアンサンブル)

ピアノソナタ第1番、第2番

季節への贈りもの(ピアノ)

すーぶに一(ピアノ独奏、および連弾)

陽のかなしみ(ピアノ)

メリーゴーランド(ピアノ連弾)

ヴァイオリン独奏の為の あやとりの記(ヴァイオリン)

### 合唱

季節へのまなざし(混声合唱、ピアノ / 男声合唱、ピアノ)

縄文(混声合唱、ピアノor管弦楽 / 男声合唱、ピアノor管弦楽)

炎える母(男声合唱、ピアノ)

復活(混声合唱、ピアノ)

ゆうべ、海を見た(男声合唱、ピアノ / 混声合唱、ピアノ)

レクイエム(混声合唱、打楽器)

しゅうりりえんえん(女声合唱、ピアノ / 混声合唱、ピアノ / 男声合唱、ピアノ)

あやとりの記(女声合唱、ピアノ / 男声合唱、ピアノ / 混声合唱、ピアノ)

ミサ曲第1番“復活”(女声合唱)

縄文ラプソディー(男声合唱、ピアノor管弦楽 / 混声合唱、ピアノ)

あんぱるぬゆんた(女声合唱、ピアノ / 男声合唱、ピアノ、打楽器 / 混声合唱、ピアノ、打楽器)

IN TERRA PAX(混声合唱、ピアノ / 女声合唱、ピアノ / 男声合唱、ピアノ)

花をたてまつる(女声合唱、ピアノ)

How old am I?(混声合唱、ピアノ)

フランチェスコ(女声or少年少女合唱 / ピアノ、打楽器、フルート)

縄文“愛”(男声合唱、ピアノ)

縄文“詩篇”(男声合唱、ピアノ、打楽器)

サバンナ(女声合唱、ピアノ)

幻の雪(男声合唱)

ミサ曲第2番“オラショ”(女声合唱、フルート、オーボエ、クラリネット、マリンバ、チェロ、コントラバス / 男声合唱、管弦楽)

ミサ曲第3番“天使の詩”(少年少女or女声合唱)

砂丘(混声合唱、ピアノ / 女声合唱、ピアノ)-平成9年度NHK全国学校音楽コンクール中学校の部課題曲

黙示録・縄文(2群男声合唱、ピアノ、打楽器)

ミサ曲第4番“炎上”(男声合唱、ピアノ / 混声合唱、ピアノ)

八月十五夜の笛吹き(男声合唱)

世の終わりのための2つのモテット(混声合唱)

ばらいぞ(児童合唱)

火の聖女I(男声合唱、ピアノ)

千の花/ミル・フィオレ(女声三部)

# 東京オペラシティコンサートホール：タケミツメモリアル

東京オペラシティコンサートホール：タケミツメモリアルは、1997年9月10日にオープンしたコンサート専用ホールで、音響的に最もよいとされているシューボックスタイプで、高い天井には大胆な変形ピラミッド型を採用し、内装には振動体・共鳴体として優れている「天然木」を使用。現代の最新音響技術を用いて、設計いたしました。これにより、ホール自身が、分離よく明瞭に響き、引き締まった低音とメローで艶のある音色を持つ巨大な楽器となります。天窗から溢れる自然光とともに、温かく心落ち着く空間を提供いたします。

東京オペラシティコンサートホール：タケミツメモリアルは、1997年9月10日、小澤征爾指揮のサイトウ・キネン・オーケストラ他によるバッハの《マタイ受難曲》によってオープンしたコンサート専用ホールです。

音響的に最もよいとされているシューボックスタイプで、高い天井には大胆な変形ピラミッド型を採用し、内装には振動体・共鳴体として優れている「天然木」を使用。現代の最新音響技術を用いて、設計いたしました。これにより、ホール自身が、分離よく明瞭に響き、引き締まった低音とメローで艶のある音色を持つ巨大な楽器となります。天窗から溢れる自然光とともに、温かく心落ち着く空間を提供いたします。



## 【タケミツメモリアル名について】

故・武満徹氏は、ホールの基本コンセプトをはじめ、設計段階から深くたずさわる他、芸術監督としてオープニング企画を監修してまいりました。オープニングを前に他界した氏への感謝と敬愛の念をこめて、ホール名に「タケミツメモリアル」を愛称として付加いたしました。また、ホワイエの中央には、故・武満氏のレリーフ（宇佐見圭司作）を配しております。



京王新線（都営地下鉄新宿線乗り入れ） 初台駅東口下車

（東京オペラシティビルに直結しています。）

京王線とは乗り場が異なりますのでご注意ください。

新宿駅西口よりバス約10分

都営バス：「西参道 新宿車庫行」

（京王百貨店前22番乗り場）

・新宿車庫前下車

